

## 今回ご意見をいただきたいポイント

三重県では、喫緊の課題である人口減少に的確に対応するため、平成27年に「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、自然減対策、社会減対策それぞれに目標を掲げ、車の両輪として施策を総動員し、取り組んでいます。

しかしながら、依然として転出超過の改善が進まず、目標との乖離が広がっており、平成29年の転出超過数は3年続けて3,500人を超え4,063人となるなど（平成29年目標2,160人）、大変厳しい状況となっています。特に、進学や就職等に伴う15～29歳の若者の転出超過は、全体の約8割を占め、転出超過の大きな要因の1つとなっています。

また、国の総合戦略においても2020年の基本目標として「地方・東京圏の転出入均衡」を掲げているが、東京圏への転入超過が進んでおり、2016年に12万人と2013年より3万人増加するなど、全国的に東京一極集中の是正が進んでいない傾向にあります。

東京一極集中の流れが加速している厳しい状況の中、東京圏から地方への新たな人の流れを作るための対策に加え、三重県における若者の県内定着を促進するために、人生のターニングポイントである「進学」、「就職」の2つのライフシーンにおいて、県として行うべき対策や、持つべき視点等について大局的な視点から幅広くご意見をいただきたいと思っております。

### ポイント 1

東京一極集中の流れが加速している厳しい状況の中、東京圏から地方への新たな人の流れを作るために求められていることは何か。

### ポイント 2

- ①「進学」シーンにおいて県内高等教育機関が選ばれるために県として注力すべきことは何か。
- ②「就職」シーンにおいて県内企業が選ばれるために県として注力すべきことは何か。

※ 若者の県内定着を促進するにあたっては、「自らの進路は自ら決める」という若者の自由意思に基づいた進路希望が制限されないように、若者第一の視点にも十分配慮する必要があります。

県内高等教育機関や県内企業の魅力が向上し、大学等の拡充等にも取り組むことで進学・就職のシーンで選ばれる三重をめざし、一旦県外に出ても結果的に若者の県内定着が進むような手立てを講じる必要があります。